

機械化による新たな形のキャベツ産地づくり

湖北農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

水田農業の担い手の経営複合化に向けて水田野菜の生産振興を行い、湖北地域においても100haを超えるメガファームによる野菜生産の事例ができました。一方、中規模の担い手や集落営農組織の取り組みが労力確保や生産性の面から充分ではありません。

そのような中、JA北びわこでは所得増大を目的に平成27年度より加工業務用キャベツの生産振興に取り組まれています。当課ではこの取り組みと連携して、徹底した機械化一貫体系により、省力で生産性が高い、今までにない湖北型キャベツ産地づくりに向けて、技術および補助事業の活用支援を行いました。

【普及活動の内容】

当課では、JA北びわこと緊密に連携し、次のような活動を行いました。

- (1) 将来の産地の姿とそのための道すじを定める産地づくり戦略をJA北びわこ連携して作成しました。
- (2) 新たに11月収穫を行うために新品種を提案しました。
- (3) 2回の追肥作業を1回に減らすために、昨年度の調査研究結果を情報提供し、施肥設計に対して助言を行いました。
- (4) 生育期間中、JA北びわことともに現地巡回を行いました。
- (5) 収穫作業の省力化のための収穫機導入に向けて県単事業「力強いしが型園芸産地育成支援事業」の手続などへの支援を行いました。



写真 キャベツ収穫機による収穫風景

【普及活動の成果】

今年度は、干ばつと長雨で野菜価格が高騰する、たいへん厳しい環境の中、11月収穫の品種を「おきな」とし、省力した施肥体系のもと、昨年度と同等の収量を確保することができました(3.5t/10a)。

一方、キャベツ収穫機については、収穫作業の精度・スピードとも高く、収穫作業時間の大幅な削減と軽労化につながりました。(総作業時間87時間/10a⇒57時間/10a)

今後は、10月収穫への拡大に向けた取り組みや病虫害防除作業の省力化に向けた取り組みなどを進め、担い手が野菜生産に取り組みやすい産地づくりをめざします。

◎対象者の意見

今年度キャベツに取り組み、収量が得られてよかった。来年度は面積を拡大して取り組みたい。(生産者Y氏)